

教育目標		校訓「強い体に きれいな心」 『自ら考え 認め合い つながる子』 ～自分だいき 友だちだいき 学校だいき～							
重点目標		全ての子どもたちの幸せのためあらゆる組織的な取り組みで積極的にいじめ見逃しゼロ新規不登校ゼロをめざす！ 特別支援教育の視点を大切に 脅威にない安心して通わせる 居場所のある学校をめざす！							
主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価	
知・徳・体の調和のとれた児童の育成	「確かな学力」の育成	①「自ら考える子」 ②互観授業の活性化 ③南小あるある「できる数人の子との授業」の打破 ④学校運営協議会との連携	①自分の考えを書く時間を確保する。 ②互観授業の昨年度の取り組みである「互観授業週間」に変わる具体策を考える。 ③研究テーマの「つながる」を意識した授業づくり。 ④九九ボランティアの初実施	①児童アンケート「自分の考えを伝えることが好きだ」80パーセント以上。 ②互観授業の活性化の実態 ③児童アンケート「友だちに伝えたり、友だちから聞いたりする活動が好きだ」80%以上。「授業はわかりやすい」80%以上	B	①児童アンケート「自分の考えを伝えることが好きだ」67%。 ②互観授業は「オールフリー」としていつでもできるように共通理解し、一定の成果はあった。 ③児童アンケート「友だちに伝えたり、友だちから聞いたりする活動が好きだ」83%。「授業はわかりやすい」88%。 ④九九ボランティアは3学期実施した。	聞くことは一定できるが、自分から発言することには課題があることから、 ①全員発表やスピーチ等発表の機会を多くし、練習量・発表量を増やす。 ②自分の考えを書く時間を確保する。	・アンケート結果から他者と意見交換する楽しさを感じていることがうかがえ、主体的対話的な授業が展開されているものと思われる。 ・学力向上に取り組んでいる姿勢がよく見える。 ・①の目標達成はできていないが、低学年も含む小学生の評価としては充分だと感じます。引き続き、発表・スピーチの機会を提供してほしい。 ・自分から発言することが苦手な子どもがストレスにならない心配。 ・家庭内以外の地域の方々と接するなどコミュニケーションスキルを養うための機会を作れるよう今後もコミスクで協議する。 ・言いやすいクラス作りはとても大切だと思う。	
	新しい時代に対応した教育の推進	①タブレットの有効活用 ②英語への興味関心を育てる。 ③デジタル化の推進計画作成	①授業や宿題で有効な使い方を考える。 ②児童の実態にあわせて活動を工夫する。 ③今年度できることと来年度行うことを整理する。	①児童アンケート「学習においてタブレットは有効であると感じている」80パーセント以上。 ②単元ごとの振り返り ③今年度できることを行う。	B	①児童アンケート「学習においてタブレットは有効であると感じている」86%。 ②ペアワーク、グループワークを多く取り入れ、楽しみながら達成感を持つことができた。 ③今年度は、学校より「がんばる南っ子たち」のデジタル配信を行った。	保護者配布物のデジタル化を推進するため、 ①何をいつ頃デジタル配信するか計画を立てる。 ②紙のみ、デジタルのみ、併用の区別。 ③全員デジタル受信できる等の調査確認。	・デジタル化に対応できる子どもの育成に努めている。 ・タブレット使用より、別室登校等の児童がクラスの仲間と一緒に授業を受けられていると以前に聞き、とても有効なツールと感じています。保護者にも、もっと使用理解を深めたいと思います。 ・デジタル、タブレットは万能ではない、便利なものですが、タブレットで絵を描くことはできませんが、まず、紙に描くことができ、タブレットです。出発基礎は、アナログ、紙です。 ・児童がタブレット学習をよく理解できた上で有効であると言っているのが気になる。 ・先生方がレベルアップされたのか気になる。 ・英語への興味関心は非常に大事と感じます。導入時期に楽しく感じないと中学高学年以降もつまずいてしまう。 ・英語の授業のより一層の充実を期待します。(例：簡易の宿題、教室廊下への掲示など) ・タブレットは、授業参加や連絡等で有効であったと思う。また、AIドリルで習熟度に合わせた自分のペースで学習できるのは有効である。 ・長時間の使用については、家庭でルールを守らせる必要がある。	
	「豊かな心」の育成	①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①議論する道徳教育 ②「認め合い つながる子」 ③「いじめ見逃しゼロ」 ④「新規不登校ゼロ」 ⑤「脅威とならない居場所作り」 ⑥体験活動のキャリアキュラム化	①議論できる主発問を考える。 ②まず、教員が子どものいいところを見つけ、つなげる。 ③いじめの早期発見に努め、小さなことも共有する。 ④不登校の兆候を早期発見し、共有する。 ⑤「学級経営と授業は同時進行」を実践する。 ⑥体験活動のよりよい実施	①子ども同士の話合いの充実度 ②「いいところつけ」の実施 ③組織的な対応の習慣化 ④組織的な対応の習慣化と別室登校の充実 ⑤児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」80%以上	B	①道徳の授業において、一定の成果はあった。 ②多くのクラスで、終わりの会等で「いいところつけ」の発表などを行った。 ③組織的な対応ができた。 ④組織的な対応ができ、別室登校は担当教員2名を中心に生徒指導担当・空き時間の教員・管理職等で運営できた。 ⑤児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」80%。	①道徳の授業は、学年内で教材担当を分担し、交換授業の形でいい、道徳授業の活性化、生徒指導の充実、業務改善を検討してみるのよい。 ②「学校に行くのが楽しくない」20%の児童に対し、何が楽しくないのか、どうしたら楽しくなるのか調査し対応する。	・組織的な対応の構築に努めている。 ・不登校対策は、地域と学校が協力していかなければならないと思います。 ・今年度は、先生方もたくさん挨拶してくださいました。引き続き挨拶運動をしていきたいです。 ・子ども達の笑顔とできる自信を増やせていけたらいいと思います。 ・いじめについての認識が児童間で共有できていないと感じます。 ・学校に行くのが楽しくない20%は、1000人中200人となり多いかも。背景がわかれば協議できるかも。100%楽しいでなくても良いがもう少し減らしたい。 ・組織的な対応ができているのは、良いと思う。
	「健やかな体」の育成	①児童の体力向上の促進 ②発達段階に応じた健全な食育の推進	①運動量を確保する授業 ②運動の日常化 ③食育カリキュラムの充実	①運動の場づくりを学年共通に行う。 ②業間遊び等を活性化する。 ③給食指導と同時に、食育指導を行う。	①学年共通実践の充実 ②朝休み・昼休みの復活 ③食育の日常実践の充実	A	①各学年で、運動量を確保するための場づくりができた。 ②朝休み・昼休みが復活できた。 ③業間休みに、PTAの取り組みである「みんみんピクニック」の持久走バージョンを実施し、多くの児童が参加した。 ④日々の食育実践を行ったり、低学年は給食センターからの食育指導を受けたりした。	運動調査等で、体力向上の必要性が言われていることから、 ①さらに、運動量の確保・運動の日常化につながる取り組みを考え、行う。	・児童の体力向上への取り組みを着実に実行されている。 ・食育は、子どもだけでなく保護者への食育が有効だと思う。 ・どの程度の食育実践を行うのか、食育の未来を考える余などは、かなりレベルの高い目標を持っている。 ・体育関係は、出来る出来ないは別にして、楽しそうにしている点は評価しています。 ・放課後の運動場開放は継続してほしいと思います。 ・業間休みに運動場で遊んでいる子どもが増えましたね。
	教育相談・支援体制の充実	①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①キャリア教育の充実 ②SCやSSWとの連携強化 ③全ての子への声かけ充実	①キャリア教育の日常化 ②重点的に連携できる場面をつくる。 ③声かけチェックシートや記録を活用する。	①自分を見つめる力・目標をもつて取り組む力の向上 ②SC来校日の木曜日に連携する。SSWの随時来校日に連携する。 ③児童アンケート「悩み不安があれば先生や友だちに相談できる」80%以上	B	①キャリアパスポートの活用を着実に進めた。 ②SCやSSWと放課後、連携することができた。時間確保が課題。 ③児童アンケート「悩み不安があれば先生や友だちに相談できる」65%。	①子ども一人ひとりの対話の時間を意識して確保する。 また、聞き方を「何かあったときに、気軽に先生や友だちに相談できる」に変えてみる。	・業務多忙の中で、子ども一人ひとりの対話時間の確保は大変かと思いますが、心強いです。 ・65%でも充分相談できていると思います。 ・SC、SSWとの連携が必要不可欠になっている現状を強く教育委員会事務局へ訴え続けてほしい。
	特別支援教育の推進	①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	①コンサルテーションの活用 ②「特別支援教育の視点を大切に」	①定期的なコンサルテーションの活用を行う。 ②すべての教員が特別支援教育の視点をもち、学級経営を行う。	①コンサルテーションを毎学期行う。 ②特別支援教育の研修を毎学期行う。	B	①伊丹特別支援学校担当職員による、専門的な訪問指導(コンサルテーション)を毎学期行った。学期によっては複数回実施できた。 ②特別支援教育の研修を毎学期行った。 ③全ての教員のさらなる特別支援教育に関する資質向上が課題。	①特別支援教育の研修をさらに充実させると共に、特別支援教育の日々のOJTを学校全体で連携して行う。	・インクルーシブな教育実現をめざして全ての教員が研修に取り組みされていることは素晴らしい。 ・目標に向けて取り組むことと他の項目も自然と底上げできると感じます。上回ることはない項目だと思えます。共生社会の形成に向けて重要であり、人としての基準だと思えます。 ・丁寧な根拠強い指導が必要だと思います。 ・特別支援教育に関する認知が保護者間でも温度差があります。お手紙(メール)で紹介するのでも一つかと思えます。
教職員の資質向上	①研修等の充実	①校内研究の活性化 ②校内研修の活性化 ③学年内でも人材育成	①研究授業を6本行う。 ②自主研修会を計画的に行う。 ③日々のOJTの充実	①各学年の校内研究授業を行った。 ②自主研修会「MINA-KEN」を計画的に行う。	A	①各学年ごとに、合計6本の校内研究授業を行った。また、教科はフリーとし、複数教科の授業が行われた。講師として、国語では伊丹市教育委員会の山下指導主事、算数では元筑波大学付属小学校副校長の田中博史先生に指導を受けた。 ②自主研修会「MINA-KEN」は、6回行った。 ③ミニ自主研究授業「勝手に研究授業」を2学期から実施し、多くの視点で多くの研究授業が行われた。	①来年度の市内研究発表に向けて、また、3年間の研究のまとめとして、子ども達のさらなる成長のため、研究・研修にさらに切磋琢磨する。	・勝手に研究授業を実施され、先生方が主体的に資質向上に取り組まれていることは素晴らしい。 ・参観で拝見した授業は素晴らしいです。引き続き、実施を続けていってほしいです。 ・コミスクでの授業参観で自ら発言することが苦手な子どももいるだろうが、多くの子ども達が授業中に意見を発表していた。自主的な授業研究と自己研鑽の成果だと思えます。 ・研究授業を勢力的に取り組まれているので、それを保護者にアピール紹介する機会があってもいいのではないかと。	
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備	①CSの活性化 ②協働体制の活性化	①熱議の場を確保する。 ②連携できる取り組みを行う。	①学校運営協議会とコミスク会を行う。 ②複数の連携取り組みを行う。	A	①学校運営協議会は合計4回、コミスク会は学校運営協議会のない月に計画的に行った。 ②「いじめ防止標語」県民まちなみ緑化事業「九九ボランティア」の取り組みを行った。	①本年度の連携した取り組みを、さらに充実させていく。 ②九九ボランティアとして参加させていた。子どもと接して楽しかったが、圧倒され疲れたが、また参加します。なかなか言い出せない子にスタートしてもらうのが難しかった。 ・管理職だけでなく、今年度の地域連携担当の先生のように、教職員の方々と徐々に連携できれば理想。 ・学校と連携し、多くの取り組みを実施できた。次年度に向けて、振り返りを行い改善点や良かった点を洗い出しよりよいものにしていきたい。 ・地域連携担当という窓口の新設があり、スムーズな連携ができた。 ・今年度取り組みを具体的に形にできたので、来年度さらなるパワーアップをめざしたい。		
	安全・安心な教育環境の充実	①学校防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	①定期的な実施する。 ②日々の安全指導の充実と事故報告の慣例化 ③日々の安全指導の充実と登下校指導の実施 ④複数による点検 ⑤集中と計画で業務改善を自主的に進行。	①児童アンケート「火事・地震・不審者などいざというときの身の守り方に気をつけている」80%以上。 ②児童アンケート「くらしのルールを守って生活している」91%。 ③児童アンケート「登下校時道路の端を歩くなどルールを守っている」93%。 ④保護者アンケート「学校は学習と生活の場としてお子さんが活動しやすい環境が整っている」97%。 ⑤下校時の歩き方、公園でのボール遊び等について地域の方からの苦情が数件あった。	B	①下校時の歩き方は、保護者・地域と連携して継続指導する。 ②ボール遊びは、学校で行うように継続指導する。 ③ボール遊び禁止と体力向上は矛盾します。地域にも責任があります。 ・先般の事件にあつた不審者対策の訓練も良かったように思う。(警察の協力も得ながら。)スマホ・タブレットの使用について児童向けの授業が必要。(使用方法、制限、危険性、脳への影響等) ・保護者への学校ルールの周知方法の検討が必要と思われる。 ・放課後に運動場でボール遊びができるのは、とても良いことだと思う。			

学校関係者評価総括
 ・先生達の努力によりいきいきとした姿が子ども達に見られます。さらなる努力をお願いします。学校教育目標・重点目標について学校の努力の成果が出ているの伝わります。B評価の項目をA評価へめざすことはもちろん、A評価の更なる改善も期待します。
 ・地域担当が新設され、連携がスムーズになり、①いじめ防止標語②県民まちなみ緑化事業③九九ボランティアの取り組みができた。さらなる教職員との連携を期待したい。
 ・昨年度もそうであったが、自分から困ったことを発信する力が弱いと感じる。(65%で充分という意見もあるが。)

次年度に向けた重点的な改善点
 ・子どもが主体的に学ぶ機会や、自分自身や他人を理解し、相手の気持ちや考えを尊重できるような環境を整えることをコミスクとして何が出来るか協議していく。
 ・発言が苦手な子ども等がストレスにならない、全ての子どもが言いやすい居場所のある楽しいクラスづくりを、全クラスの最上位目標として組織的に取り組む。
 ・困ったことを発信できる力・相談できる力を身に付けられるように、例えば「1日1回はクラスの全ての子どもと対話する」などの取り組みを行う。
 ・タブレットの有効的な活用方法を研究・共有していくと同時に、使い方のルールの徹底を家庭と連携して行う。